

関東・東北豪雨を受けた「避難を促す緊急行動」

出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を首長と確認

－ 大和川河川事務所 －

この度の平成27年9月関東・東北豪雨により、全国各地において浸水被害等が発生しており、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市では、約1万1千棟が浸水するなど甚大な被害が生じました。今回の水害を受け、

- [1]堤防決壊に伴う氾濫流による家屋の倒壊・流失
- [2]地方公共団体による避難判断、広域避難
- [3]避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生

この3点を対処すべき主な課題と捉え、全国の市町村長や堤防沿いにお住まいの住民の方々の不安や懸念に応えるための「避難を促す緊急行動」を実施することとし、その一環として洪水予報、ホットラインなど出水時に河川管理者及び洪水時における各期間から提供される情報とその対応等を**大和川上流沿川市町の首長**と確認しました。

概要

対象河川：大和川水系大和川（大和川上流）

- 日時：平成27年11月4日（水）13:30～15:00
- 場所：王寺町 やわらぎ会館 3階 研修室
- 参加者：**大和川上流沿川11市町（うち7首長参加）**
奈良県河川課及び各土木事務所、気象庁、国土地理院、近畿地方整備局河川部、大和川河川事務所



【確認内容】

- ・関東・東北豪雨に係る被害及び復旧状況
- ・基準水位観測所設定水位
- ・ホットライン（事務所長から市町村長へ直接連絡）での情報提供内容
- ・重要水防箇所
- ・タイムラインの効果
- ・災害時にトップがなすべきこと



王寺町長発言

その他、市長、町長が避難勧告発令の目安となる「氾濫危険水位」など河川管理者が出す情報の活用を確認した上で、こうした情報が出るまでの連絡を密に取り合うことや、水防上重要な区間について、河川管理用カメラや水位計などで状況をリアルタイムで把握し、ホットラインで伝えることなど、**市・町との情報のやりとりを強化していくことを確認**しました。

【首長からの主な意見】

- ・鬼怒川の破堤では広域的な範囲が浸水したので、ホットラインでは、複数の市町の広域的な情報が大事である。
- ・鬼怒川のような水害では2階への垂直避難は危険であるため、家屋倒壊危険区域図を早期に作成し、情報発信してほしい。
- ・下流だけで対応できないので、総合治水対策の取り組みを国、県、市町など流域全体で、引き続き実施していくべきである。

報道

以下の報道機関に記事等を取り上げられました。



- ・NHK奈良放送
11月4日（水）
「ならナビ」
- ・毎日新聞 11月5日（木）朝刊
- ・産経新聞 11月6日（金）朝刊

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
大和川河川事務所調査課
〒583-0001
大阪府藤井寺市川北3-8-33
TEL 072-971-1381

